

令和3年 9月 15日

(あて先) 千葉市議会議長

議席番号 33番 氏名 段木和彦

質 問 主 意 書

千葉市議会会議規則第61条の2第2項の規定により、質問主意書を提出します。

【質問項目・内容】(3項目6問以内)

- 1 農政センターの取組について
 - (1) これまでのスマート農業の取組について
 - (2) 結果をどのように活かしてきたのか
 - (3) 新たな取組について
 - (4) どのように広めていくのか
 - (5) 次世代の育成をどのように考えるのか
 - (6) みどりの食料システム戦略と本市の対応

【質問文】(900文字程度)

1 千葉市農政センターは昭和53年に開設され、地域農業者への種苗供給、技術指導や栽培試験、新規就農希望者研修等、本市農業者を幅広く支援し、農業振興に大きく貢献してきたが、現在は農業技師が少ないことや、施設の老朽化等の課題も抱えている。

一方で、他業種からの参入やデータを活用した農業経営に取組む担い手への対応や、様々なスマート農業技術の導入を踏まえた「千葉市農政センターリニューアルプラン」の策定が進められており、先月、農政センターを視察する機会をいただき、本市農業の成長産業化を目指し、新たな担い手の確保・育成や新技術対応への強化に向け、着々と準備が進められている状況を確認した。

新技術に対応したスマート農業については、平成30年第4回定例会において質問をさせていただき、「農政センターを活用した企業と連携した実証実験を今後も継続するとともに、実用化を視野に農業現場での普及を促進していく」との答弁をいただいた。

また、新たに5月に正式決定された国の「みどりの食料システム戦略」の2022年度予算の概算要求の全容が判明し、グリーン化(脱炭素)やデジタル化などに予算を重点配分する方針等が明らかになったが、次世代の農業振興に向けて、本市の農業を支えてきた農政センターのこれまでの取組と今後について問う。

- 1 これまで農政センターが進めてきたスマート農業の取組について伺う。
- 2 その取組結果をどのように活かしてきたのか。
- 3 現在、リニューアルプランの策定が進められているが、スマート農業の新たな取組について伺う。
- 4 新たな取組はどのように広めていくのか。

5 農政センターでは小・中学生を対象に、「What is 農?2021」という研修・イベントを実施しており、視察に伺った日には農業用ドローンやGPS付トラクターの実演が行われ、中学生が真剣に農業を実体験していた。

こうした取組も行われている中で、農業の担い手不足、特に若者の就農や次世代の育成についてどのように考えるのか。

6 農林水産省の2022年度農林水産関係予算の概算要求の全容が明らかになったが、国の「みどりの食料システム戦略」を踏まえ、今後どのように対応していくのか。